

# 北海道社会保障学校in苫小牧 速報ニュース

2009年10月19日

発行: 社保学校実行委員会

## 学校一日目の全体会に173名が参加

### 開校式に苫小牧市から副市長が歓迎のあいさつに

開校式では、最初に学校長の黒川 一郎道社保協会長が開会のあいさつを行い、畠山忠弘苫小牧社保協副会長が現地実行委員会を代表してあいさつをしました。畠山さんは、前回、苫小牧市で社保学校を開催(2000年)してから10年間の苫小牧市の変化や現状を報告し、運動の強化を訴えました。

また、来賓として中野裕隆苫小牧副市長が出席して歓迎のあいさつをいただきました。



黒川会長



畠山副会長



中野副市長

## 記念講演で学び、特別講演に感動

### 記念講演「社会保障と消費税～日本税制のあり方」(浦野広明立正大学大学院教授)

浦野教授は膨大な資料を使って、日本の税制のあり方や税の取り方使い方、消費税の問題点についてわかりやすく解説しました。

最初に、税制の基本は日本国憲法にあると切り出し、税の支払い方は応能負担が原則であり、税は平和や福祉のために使われるのが基本だと強調。消費税は、負担能力を考えない憲法違反の悪循環の税制だとして、消費税が大企業に巨額な利益をもたらしており、税率5%はすべての消費に均一に課すため、実際には世界で最も高い税率になっていると指摘しました。フロアーからは次々と質問が出され、丁寧に答えていました。参加者からは「勉強になった」「社会保障を税制から考えるのは初めてで役に立った」などの声が寄せられました。



### 特別講演「森の生き物たちと人間」(日浦勉北大苫小牧研究林林長・北大教授)

日浦教授は、スライドを使って、先生が勤務する北大苫小牧研究林の紹介や環境変化(温暖化)と森林について写真やデータを示して話されました。

2004年の18号台風で大きな被害(大規模攪乱)を受けたことを紹介しながら噴火や災害で森林は常に攪乱と再生を繰り返すと話され、森林の炭素吸収能、動植物の生態研究、紅葉時期の観察、二酸化炭素量の推移、降水量の変化などの研究から、環境が変化してきている事への警鐘を鳴らしました。参加者からは、「大変興味ある話が聞けて良かった」と好評でした。



## 《講演会の感想文から》

記念講演～「税制について知っているようで無知だったんだとあらためて判った。給与所得の控除について初めて判った。控除額の内容が改悪されると年金所得者の生活は大変なことになる。その他の人たちを含め、弱者を締め付ける方向にいつてしまう。政治や法律についてもっと知らなければと思った。憲法を守りぬくこと、憲法にそって何が正しいのか考えることの重要性を実感した」

特別講演～「温暖化、二酸化炭素についてあらためて考える機会になりました。生物・化学の学習を久しぶりにしたので楽しかったです。一緒に研究に参加したいと思います。自然の移り変わりを知ることが出来、悪化させないために私たちに何が出来るのか。一人でも実行していった方が良いのだろうけど、そういう人たちが沢山増やしたいと思います。楽しい時間でした。」

## 明日からのたたかいに向けて行動提起

吉岡事務局長が「北海道社保協からの行動提起～新たな政治状況のもと、諸要求実現・社会保障の拡充をめざしてたたかいを強めよう！」を行い、行動への参加を呼びかけました。

特に、臨時国会に向けて要求実現の声を集中しようと、「緊急請願署名」の取り組みやFAX要請行動、議員事務所要請行動を呼びかけ、中央集会・国会行動および道内各地での運動を提起しました。後期高齢者医療制度即時廃止のFAXは、その場で33名分が集まりました。

## 夕食交流会で、大いに食べ、飲み、語る！

夕食交流会は、会場を「しゃぶしゃぶ・わいわい亭」に移して、44名が参加し、楽しい交流会となりました。

参加者が次々とマイクを握り、各地の取り組みや集会の感想、思いが出され、時間が足りなくなる程の盛り上がりでした。

終了後、二次会に繰り出す参加者もいました。



## 二日目は、4つの分科会で活発に議論

### 4分科会に139名が参加、熱気ある議論に！

第1分科会 介護問題  
参加者数～28名



第2分科会 貧困問題  
参加者数～42名



第3分科会 地域医療  
参加者数～23名



第4分科会 相談員養成講座  
参加者数～46名



2日間の参加者は、延べ312名、実参加者数は217名でした

学校への参加、お疲れ様でした。

明日からのたたかいに全力をあげて  
とりくみましょう！

実行委員会の皆さん  
ありがとうございました

